資料2

保育の集団規模に関するアンケート結果

1　調査概要

調査目的	各年齢クラス（3・4・5歳児）における集団規模について、保育・教育を担う現場職員の意見を把握する
調査対象	市内公立保育所・私立保育園・認定こども園の保育士職員
調査期間	2026年8月29日 ～ 2026年9月4日
回答件数	79件（うち施設種別内訳は下表のとおり）
調査方法	Webフォームによるアンケート（自由記述含む）

2　施設種別 回答内訳

施設種別	回答件数	構成比
私立認定こども園	36	45.6%
公立保育所	31	39.2%
私立保育園	12	15.2%
合計	**79**	

【集計上の注記】

・人数の回答は「10～15人」等の幅表記が多いため、集計上は回答の下限～上限の中間値を用いて代表値（平均・中央値）を算出している。

・各年齢クラスの集計対象は、当該年齢の担任か否かにかかわらず、回答があった件数を全て含めている（例：5歳児の集計に、他年齢担任からの回答も含む）。

年齢別 理想とする集団規模の人数

1　代表値

年齢	回答数(n)	平均	中央値	最小値	最大値
3歳児	33	13.3	13.5	6	20
4歳児	25	15.7	15	10	27.5
5歳児	35	16.5	15	8	30

※「10～15人」等の幅回答は下限・上限の中間値（例：10～15人→12.5人）に換算して算出。単一回答（例:15人）はそのまま15人として扱う。

2　理想とする集団規模の人数の分布

人数	3歳児	4歳児	5歳児
～5人	0	0	0
6～9人	3	0	1
10～14人	14	9	9
15～19人	14	11	14
20～24人	2	3	9
25～29人	0	2	1
30人～	0	0	1

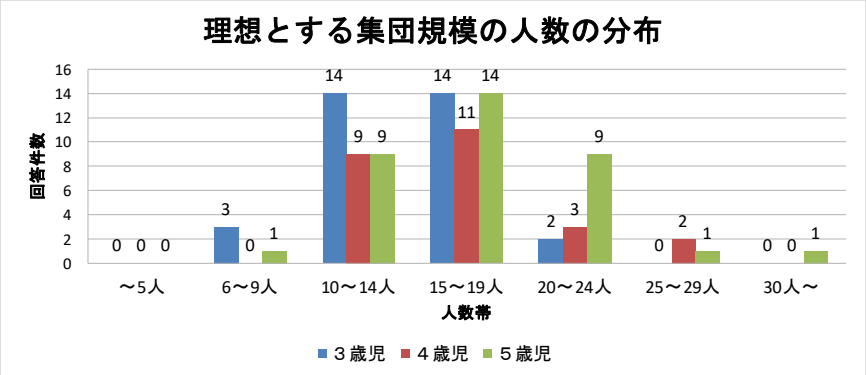
施設種別ごとの傾向

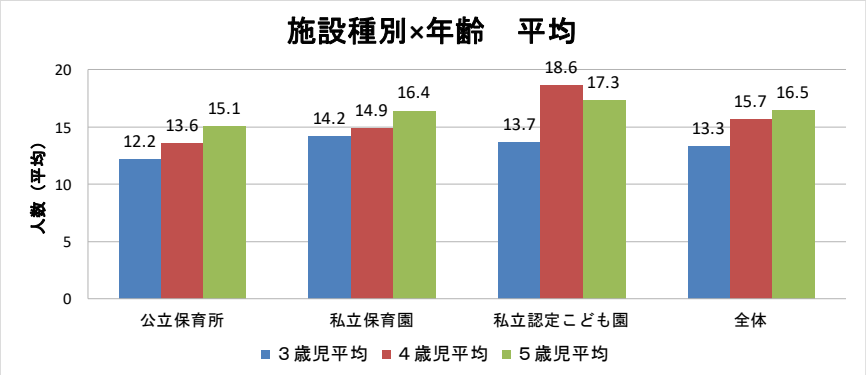
1　施設種別×年齢　n数・中央値・平均

施設種別	3歳児 n	3歳児中央値	3歳児平均	4歳児 n	4歳児中央値	4歳児平均	5歳児 n	5歳児中央値	5歳児平均
公立保育所	12	11.8	12.2	10	12.5	13.6	11	15	15.1
私立保育園	6	15.2	14.2	6	14.8	14.9	6	15.5	16.4
私立認定こども園	15	15	13.7	9	17.5	18.6	18	17.5	17.3
全体	**33**	**13.5**	**13.3**	**25**	**15**	**15.7**	**35**	**15**	**16.5**

※「全体」は施設種別を問わない全回答の値。上段3行（公立保育所・私立保育園・私立認定こども園）の単純平均ではなく、全回答から算出した値のため、行の平均と厳密には一致しない場合がある。

グラフ





「理想とする人数の理由」（自由記載）

※ 年齢クラスごとに、適正と回答した人数帯別の件数と代表的なコメントを掲載。全93 件（延べ）を集計。

3歳児（n=33）

人数	件数	代表的なコメント
6～9人	3	・ひとりで見るとしたらギリギリ見ることができる人数 ・きめ細かな保育ができる。1人1人寄り添った保育ができるため
10～14人	14	・一人一人に丁寧に関わる事ができる為 ・発達に個人差がある子ども達のフォローしながら保育ができるため
15～19人	14	・あまり少人数でも集団遊びが盛り上がらないし、多すぎても一人一人の様子が把握できなくなるため ・以前の配置基準は22人に対して1人でした。今の基準になり、子ども達や保護者との関わりなど細かく丁寧に対応できるので15人が適正だと思います
20～24人	2	・子ども同士刺激し合いながら成長できるから ・集団遊びが楽しく行えて、一人ひとりに注目した保育もできると感じるから

4歳児（n=25）

人数	件数	代表的なコメント
10～14人	9	・一人一人丁寧に関われる人数だと感じるから ・集団遊びや活動が成り立ち、個々の遊びもじっくり楽しめるため
15～19人	11	・配慮が必要な子も増えてきている中で一人一人の子どもたちをしっかり理解し、保育ができる人数だと思うため ・一人ひとりをよく見れる最大人数だと思う。制作準備や、グループ活動にしてもちょうど良い人数だと思う
20～24人	3	・グループ分けをして集団遊びを楽しむため。人数があまりに多くても少なくても子どもたちが心地よく過ごすことが難しい気がするため、25人前後がちょうど良く感じる ・今のクラスの人数だから
25～29人	2	・集団遊びを楽しめるため ・グループになったり、集団ての活動が充実できるため

5歳児（n=35）

人数	件数	代表的なコメント
6～9人	1	・グループ分けがやりやすい。 ・いろんな人がいるという人との関わりを経験できるため
10～14人	9	・1人ひとりに寄り添える時間が増える ・集団遊び運動遊びが、ちょうどいい人数で参加できるため、意見交換を行ったり、話し合いの時には様々な意見が出てきて主体的な保育が行える
15～19人	14	・一人一人を大切に、また丁寧な保護者対応ができるため ・リレーや鼓隊など、チームの決めるのにちょうどいいと思う人数のため
20～24人	9	・話し合いをする中で、いろいろなアイデアが出たり、それを聞いて刺激を受け行動に移す場面が増えるため ・個別に支援をしている子にも丁寧に支援ができる
25～29人	1	・集団遊びができ、人の意見も取り入れて遊べる
30人～	1	・集団遊び、活動が充実するため

【傾向】

・3歳児は「10～14人」「15～19人」に回答が二分（各14件）している。

・4歳児、5歳児は「15～19人」が最多となっており、年齢が上がるほど理想とする人数の分布が多人数側にシフトする傾向が、コメントからも確認ができる。

・5歳児の「20～24人」は9件と他年齢よりも突出している。「集団での話し合い・意見交換」を理由に挙げる回答がこの帯に集中している。

「少人数保育での工夫」（自由記載）

※ 自由記述93件（延べ）を内容で分類。1件の記述が複数カテゴリに該当する場合は重複カウント。（ ）内は、その工夫を回答した人が答えた理想とする集団規模の人数。

累計	件数	構成比	代表的なコメント（原文引用・（ ）内は回答人数）
異年齢合同保育・交流	76	82%	・異年齢クラスと合同で活動を行う（11.5人） ・縦割り保育で子ども同士の関わりを増やす（20人）
他園・地域との交流	6	6%	・姉妹園や近隣施設との交流（10人） ・就学に向けて集団での活動ができるよう、姉妹園や近隣の保育施設同士での交流の機会を設ける（12.5人）
遊び・活動内容の工夫	5	5%	・遊びの内容の工夫（12.5人） ・遊びの内容を工夫したり、行事への取り組み方について人数に合わせて考えたりしていく（15人）
個への配慮の強化（少人数を活かす）	6	6%	・少人数だからこそ一人ひとりに寄りそう（12.5人） ・気になる子が増えている中で、1人1人とじっくり関わる時間が増えていい（10人）
人員体制（加配・協力体制・支援）	5	5%	・加配の先生や協力の先生を配置してもらう（11人） ・保育士の人数を増やす（10人）
特に対応なし・現状維持でよい	3	3%	・分かりません（20人） ・した回っていても大きく問題はないように思う（15人）

【傾向】

・工夫の内容は「異年齢合同保育」に極めて強く集中している。

・「個への配慮の強化」を挙げた回答者の理想とする集団規模の人数は平均16.9人とやや高め。少人数だからこそ個別対応がしやすいという発想は、必ずしも「人数が最も少ない層」に偏っているわけではない。

・「人員体制（加配・協力体制）」を工夫として挙げた回答は5件と少数である。

その他自由記述　主な意見抜粋

※ *記載のうち、代表的なコメント*を類型化。

気になる子への対応
・特性のある子やグレーゾーン、気になる子が多いため、少し前より少人数になったが難しさを感じる。
・近年加配を必要とする子が多く、そちらに人員を取られている。
・子どもの特性等によって適正人数は変わってくると考える。
・子どもの特性によっては20以上のクラスは子どもにとっても保育者にとっても負担が大きくなる可能性がある

少人数クラスの対応
・人数が少なくても、抱えている一人ひとりの問題が細かく対応に追われる
・現在はかなり少ない人数での保育をしているが、1人1人を丁寧に見ることができ、自分自身も落ち着いた保育ができている。